

水煙

小林 まもる

渋茶を飲む時間が整ってくると  
なつかしい未来のほうから  
老いのわがままな特権のように  
ゆったりとした光が漂ってくる

おれという今日の二律背反は  
しばしそのままにして  
そのうち渋茶をすすり終えたら  
縄にして軒場につるして表札にしよう

湯面に映ることばのほのお  
それをわた飴のようにまきとって  
あとは空の器の匂いを吸い込み  
こっそり水煙のように昇天してみる

ジーちゃんなにしてるの  
いっしょにあそぼ  
絵本を持った  
まごのこえが迎えに来る